

時を戻そう 青春の回顧録

第二回 下之蘭先生

先生方に、青春時代のお話を伺うこのコーナー。連載第二回の今回お話を伺ったのは、一年七組の担任でハンドボール部の顧問でもある数学科の下之蘭先生。インタビュアーは、一年七組下之蘭先生学級一員で、生徒会体育部・吉野翼が務めました。お楽しみください。



吉野..よろしくお願ひします。
下之蘭T..お願ひします。
吉野..まず、下之蘭先生が高校生のとき一番頑張っていたことは何ですか。
下之蘭T..高校生の頃はやっぱり勉強ですね。先生たちの時代は授業が一時目から八時間目まであって、家が遠くて帰るのが遅くなるので部活はできなかったんですけど、勉強は頑張ったと思います。
吉野..なるほど。
では、教師という仕事をしていて、楽しいと思うことはどんなことですか。
下之蘭T..教師をしていて楽しいのは、毎年新しい生徒との出会いがあることです。ね。生徒たち一人ひとり個性が違うので、特に今年は久しぶりに一年生の担任で、すごく元気がよくて、自分としては毎日が、すごく学校生活が楽しいです。
あとはやっぱり授業で、数学を教えているとかが楽しいと感じるときですね。
毎年毎年そうなんです、生徒と同じように成長できるところが教師の素晴らしいところだと思います。
吉野..ありがとうございます。
逆に、教師として、大変だと思うことはありませんか。
下之蘭T..まあそんなに大変なことはないんですけど、若いころは生徒と年齢が近くてコミュニケーションをとるのに苦労しなかつたんです。

たんですが、今は世代が違うので、生徒が何を悩んでいるのかとか、コミュニケーションをとるのが少し大変かなというところではあります。でも、仕事の面としてはそんなに大変だと感じたことはないですね。
吉野..では最後に、加治木高校の生徒に、メッセージをお願いします。
下之蘭T..今年加治木高校に転動してきて一番感じることは、生徒たち、三年生、二年生、一年生も、素晴らしい生徒が多く多いという事です。先ほども言いましたが、先生は高校時代部活をしていなかったのですが、今でも悔いが残ります。もっと高校時代に、もっといろいろなことを経験しておけばよかった。など。ですから加治木高校生には、友達をたくさんつくったり、勉強はできるできないはあるのかもしれないけど、やっぱり目標を立てて、勉強が大変でも毎日、明るく楽しく学校に来て、悔いなく生活していったりしてほしいと思います。高校卒業したら分かります。思いますが、高校時代というのは人生の中でたった一回しかないので、たった三年間で、将来のことを考えて、いろんな友達と話をし、将来の目標とか、自分の考えいです。まだまだ人生はこれからですから、勉強で躓いても友達と一緒に考えながら、もっと加治木高校を盛り上げてほしいなと思います。

生徒会からの挑戦状

前回の答え

「Q.E.D.」の元の語は「Quad Erat Demonstrandum」。
ラテン語で、「これが示されるべきことであった」の意。

問題

オランダのポスト印象派の画家フィンセント・ファン・ゴッホの絵画は、彼の生前には一枚しか売れなかったと言われている(諸説あり)。では、唯一生前に売れたというその絵のタイトルは何か。

答えは次号、次の問題とともに掲載します。

教えて！大山先生！今月の名言！

にんげんの夢に

終わりが無いのは、

夢の途中の姿が

一番綺麗だから。

大山海人

編集後記

今週の月曜日、夏季授業の開始から半月近くも続いてきた一・二年生の分散登校が終わりました。とはいっても通常通りに戻ったわけではなく、時差登校という形で毎日登校しています。コロナに侵された今の暮らしが「いつも通り」となりつつある中、二年前のような日々に戻るには道のりはまだまだ遠いようです。

さて、明日は二週間弱の延期を経て体育祭が開催されます。今回の新聞の一面はすべてその話題でした。体育祭を盛り上げてくれる応援団の皆さんのコメントも掲載しています。第一号の新聞で生徒会長が書いていた通り、思い出に残る行事になるよう、感染症・熱中症予防に努め、学校全体で楽しみましょう。

三年生においては、今月は共通テストの願書提出も行われます。今回の「今月の名言」コーナーは、夢がテーマの言葉でした。一年生も先日文理選択の説明がロングホームルームの時間に行われ、それぞれの将来を意識すべき時になっているように感じます。

第三号を迎えた生徒会新聞、今回もここまで読んで下さり、ありがとうございます。新聞へのご意見・ご要望等いつでもお待ちしております。

それではまた、次回第四号の発行をお楽しみに。(下村 将太郎)

加治木高校生徒会新聞 克己復礼の先



第3号
2021.9.15.(水)

制作
下村将太郎

発行
第74代生徒会

- 一、 体育祭 明日開幕
- 二、 志一体育祭応援団長に聞く
- 三、 生徒会より
- 四、 時を戻そう〜青春の回顧録〜
- 五、 生徒会からの挑戦状
- 六、 教えて！大山先生
- 七、 編集後記

体育祭 明日開催

今年度の体育祭は、新型コロナウイルス感染症「感染爆発」の影響を受けて開催が危ぶまれ、当初予定の九月四日から二週間弱の延期がなされた。さらに実施する種目数も大幅に削減され、多くの人にとって残念な形になってしまったかと思う。しかし他校では中止になった学校も見られる中、開催できるだけでも幸運である。以前のように歓声を上げることができないが、何人もの努力によって生まれる明日一日が心に残る日になるよう、全力を尽くしてきた。

令和三年度、第七十四回龍門祭。テーマは、「変われ。自信を手に入れる。」

いよいよ開幕が明日に迫る。

(下村将太郎)



赤団

組応援団は三年の夏という大事な時間を応援団に割いて一生懸命練習してきました。一人一人が本当にしっかりしていて、団長という立場ではありますが、団員をとても頼りにしており、必ずいい演技ができるかと信じています。

新型コロナウイルスにより縮小という形になりましたが、最後の体育祭を楽しんでいきましよう！

団長 井手 拳臣

黄団

団長になってから自分の力不足を感じる毎日でした。それでも、多くの友人や先生方に応援して頂き支えられました。そんな方々への感謝も含めて最高の応援、競技ができればと思います。

色々苦しい中ですが、年に一度の体育祭、みんなで楽しみましょう！

団長 石原 飛鳥

紫団

私たち紫団には、思い通りにいかないこともたくさんありましたが、このひと夏を通して、私たちに強い絆が生まれました。

体育祭では、演舞や応援に精一杯取り組み、体育祭を成功させるという目標を達成させたいと思います。

団長 堂前 優太郎
副団長 杉田 晃樹
里山 ころろ

生徒会より

このコロナ禍での開催となり、種目も減って、例年のような体育祭ができなくてとても残念ですが、限られた時間の中で思い出作りができたらいいなと思います。熱中症、感染症対策をしっかり行い、素晴らしい体育祭にしましょう！

(祝部 結友)

熱中症、感染症に十分気を付けてください。みなさんでいい体育祭にしましょう！

(吉野 翼牙)

「どんな状況でも、いかに楽しめるか」と、中学生の時、ある先生に聞きました。まさに今にピッタリの言葉だと思えます。延期やプログラムの変更など異例のことだらけですが、楽しい思い出を創りましょう。

(満塩 浩史)